

目 次

はしがき

第 I 部 精神障害者と人権

第 1 章	精神障害者問題に対する社会の視線	2
1	精神障害者に対する人々の視線	2
2	精神障害者処遇の過去（精神科医療関係法規の歴史）	5
3	精神科医療に対する法規制の特徴	10
	コラム① 本書執筆の契機——障害者として	19
第 2 章	強制医療システムと人権	20
1	精神障害者になぜ人権が保障されてこなかったのか？	22
2	非自発入院の正当性は疑わしい？	24
3	非自発入院の正当化根拠——アメリカの展開	26
4	精神障害者のみの非自発入院の正当化根拠	36
5	非自発入院の正当性を支える要素	38
	コラム② 本書執筆の契機——憲法研究者として	49
第 3 章	精神保健福祉法と人権	50
1	関係する権利	51
2	入院形態	53
3	精神科医療と家族——保護者制度	76
4	入院後の処遇——面会・通信、隔離・身体拘束	85

コラム③ 身体障害者からみた精神障害	98
第4章 障害者の人権——その普遍性と特殊性	99
1 希望としての「人権」	100
2 「強い個人」論の隘路	102
3 障害者の人権の位置づけ——普遍性と特殊性	107
4 不利な立場の人々の視線からみえるもの	114
コラム④ 法・人権の意義と限界	118

第Ⅱ部 精神障害と社会の諸相

第5章 精神障害と犯罪	120
1 精神障害者は危険か？	120
2 刑事司法における「能力」	122
3 責任能力をめぐる論争	124
4 犯罪を行った精神障害者の処遇	141
5 犯罪を行った精神障害者に対する司法福祉	154
コラム⑤ 障害者差別に対して私たちにできること	167
第6章 精神障害者と社会——「施設コンフリクト」をめぐって	168
1 施設コンフリクト——現状と構造	168
2 施設コンフリクトと法	174
3 事例から考える	176
4 解決に向けて——社会のレジリエンスとしての人権	181